

Q 出産後すぐに職場復帰したい。こども園の仕組みと入園時期は？

A 認定こども園は、就学前の子どもに対し、幼児教育と保育の両方を提供する施設です。

認定こども園ド・レ・ミでは、生後6カ月から受け入れを基本としていますが、家庭の事情により早期に入園を希望される場合は、事前に子どもの状況や就労状況についてご相談ください。

なお、平成29年度からの入園に関する事務手続きは、役場町民生活課で一括して行っております。

こども園の入園児童数の増加に伴い、最近、定員超過に関するお問い合わせを多く受けておりますが、新年度の入園希望者については、全て受け入れができています。

お子さんを預かるうえで「安全で安心な教育・保育環境の確保」が第一となることから、状況によっては、入園児童数に対する適正な保育士を確保するために、入園時期をお待ちいただくこともあるかと思いますが、今後も利用者ニーズの把握に努めながら、地域に根差した園運営を進めていきます。



認定こども園 大沼所長 0146・47・2489

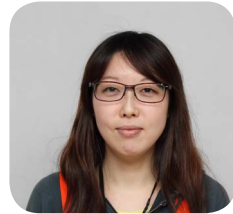
Q 離乳食を食べてくれない。作り方が悪いのだろうか・・・

A 離乳期は、赤ちゃんの栄養源がミルクから食事に変わる時期で、離乳食を通して「飲み込む」や「噛む」ことを練習し、色々な食材を食べ「味覚の発達」や「食事の楽しみ」を覚えるなど、食生活の基盤を作る時期となります。

お子さんが離乳食を食べてくれないという相談をよく受けますが、大切なことは無理に食べさせないことです。焦らず、お子さんのペースに合わせ、少量しか食べない場合でも母乳やミルクで補いながら経過をみていきましょう。

また、離乳食の作り方についての質問も多く寄せられます。離乳食の作り方は育児書などにも書かれていますが、実際に調理を体験することが自信につながると思いますので、保健福祉課で行う「離乳食教室」への参加をお勧めします。

他にも、子どもの「好き嫌い」「遊び食べ」「小食過食」など、「食」に関する相談がありましたら、お気軽にお問い合わせください。



役場保健福祉課 小森管理栄養士 0146・47・2113

Q 近所の子どもの泣き声がひどい。虐待ではないか心配です。

A 隣屋における子どもの泣き声がひどいというだけで、一概に「虐待」とは限りませんが、心配になることもありますよね。

このように「虐待かどうか分からない」状況も含め、判断や対応に迷ったときは、まずは、担当窓口にご連絡ください。

虐待が起きるケースとしては、子育て不安、夫婦関係の不仲、働きたいのに働けない、親の介護など不安やストレスがたまってきたとき、どこに相談してよいか分からず自暴自棄になり、結果として虐待に発展するケースがみられます。



役場町民生活課 社会係 白浜係長 0146・47・2112

また、一生懸命に子育てをする中で、「しつけ」として手をあげたことでも、子どもにとって有害で、虐待となってしまうケースもみられます。

これらのように、皆さんが心配しているその家庭には、子育てに苦勞し、相談相手もみつけれずに悩んでいる親がいるかもしれません。

皆さんから連絡をいただくことで、児童相談所の職員が状況を確認し、その家庭に子育てサービスの情報提供を行ったり、関係機関を紹介するなど状況の改善につなげられるかもしれません。

そして、もう一つ大切なことは、実際に虐待が起きている場合、親は神経質になり周りの目などを気にすることが多く、周囲の人が個々に動いたりすると、虐待がさらに悪化するケースが多くあるということです。このような状況を防ぐため、また、素早く慎重な対応をとるために、気になることがありましたら、役場町民生活課までご連絡ください。

町内の子育て応援隊が よくある「子育ての悩み」にお答えします!

Q 子どもと一緒にいける施設や参加できるイベントはありますか？

A レ・コード館図書プラザは、小さなお子さんと一緒に、快適に過ごすことができます。

図書プラザには、靴を脱いでくつろげる「おはなしのへや」があり、赤ちゃん絵本や布の絵本、育児書なども充実しています。

また、お子さんと参加できる事業としては、読み聞かせサークル「びっくり箱」による絵本の読み聞かせ会がお勧めです。毎月、「赤ちゃん向けのおはなし会」と「幼児向けのおはなし会」を開いており、周囲に気をつかうことなく、親子でゆっくりと読み聞かせを楽しむことができます。日程は「広報にいかっぷ」や「まな・ボード」に掲載しています。

また、レ・コード館は、天候に左右されることなく利用でき、展望塔で町の景色を楽しむこともできますし、ホールでレコードを聴くこともできます。「どこか外に出たいけれど、行き先が見つからない」そんなときは、レ・コード館に遊びに来てください。



レ・コード館図書プラザ 澤田図書司書 0146・45・7777

先月からスタートした「子育て」をテーマにした特集記事では、まず始めに、子育て世代を対象としたアンケート結果をご紹介します。

そのアンケート結果からは、多くの方々が「子育ての悩み」を抱えながら日々生活していることがわかりました。

そこで、今月号では、保健師や子育て支援センターに多くよせられる、よくある「子育ての悩み」とその回答について、ご紹介していきます。

回答者は、町内の子育てサポート機関の方々です。それぞれの専門的な立場から、皆さんの悩みを解決していきます!



Q 子どもがじっとしてられない。落ち着きがないように感じられる。

A 基本的に、子どもは好奇心が強く、元気に動き回るのは子どもの特性なので問題ありません。しかし、こうしたことが長く続いたり、何度注意しても積み重ねができないようであれば、発達になんらかのつまずきがある場合も考えられます。

「動き回り落ち着きがない」とひと口に言っても、子どもの行動をよく見てみると「集中力が長続きしない、周囲の気をとられやすい、注意してもすぐ忘れてしまうといった不注意」や、「動き回ったりおしゃべりをコ



子ども発達支援センター 長谷川センター長 0146・47・1522

ントロールできない多動」、「自分の感情と行動を抑えられない衝動」など、その様子はさまざまです。

こうした要因としては、ワーキングメモリとよばれる、作業中に短期的に記憶しておく脳の機能が未熟で十分に働いていないことや、入力された情報が全て意識化されて情報過多状態となり、結果的に「動き回り落ち着きがない」行動になっているのではないかとわれています。

いずれにしても、親が不安や疑問を抱いた状態での育児は親子関係に良い影響を与えませんので、まずは、当センターにご相談ください。

また、この様な発達に関する内容に限らず、育児や子育てについてのご相談もお受けしておりますので、お気軽にご利用ください。

